

令和6年度 事業報告書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)



令和6年度 学校法人 滝学園 事業報告書

1 法人の概要

本学校法人滝学園は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神に基づく学校教育を行い、社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。

この目的を達成するための令和6年度における滝学園の事業計画概要は以下のとおりであります。

(1) 法人名、所在地

(法人名) 学校法人 滝学園
(所在地) 愛知県江南市東野町米野1番地

(2) 創立者 及び 建学の精神

(創立者) 瀧 信四郎
実業家として成功を収めた瀧 信四郎が、「教育の任務は重大であり、その成果は永遠である。長期的視野にたてば、自分を育ててくれた郷土から将来社会に貢献できる青少年を育成することこそ最大の恩返しである。」と考え、「報恩感謝」、「質実剛健」、「勤勉力行」を建学の精神（校訓）とし、大正15年4月に開校しました。

(3) 沿革（抜粋）

大正13年6月	設立計画発表
大正15年4月	瀧實業学校開校
昭和元年12月	本館竣工
昭和4年3月	専修科設置認可
昭和5年2月	農業科・商業科3年制（乙種）併設
昭和8年12月	講堂・旧図書館竣工
昭和11年7月	財団法人設立認可
昭和14年2月	農業科・商業科3年制廃止 農業部3年制（甲種）第2本科新設
昭和19年2月	商業部・農業部第2本科廃止、
昭和19年3月	農業拓殖科設置（昭和21年廃止）
昭和21年4月	商業部再度設置
昭和22年4月	滝中学校（男女共学）併設
昭和23年4月	農業科設置（昭和37年に畜産園芸科に改編、昭和45年廃止）
昭和23年4月	商業科設置（平成12年廃止）
昭和24年4月	普通科新設
昭和25年3月	農業別科設置（昭和28年廃止）

昭和 25 年 4 月	家庭科新設（昭和 30 年 4 月廃止）
昭和 25 年 5 月	滝服装文化学園併設（昭和 26 年廃止）
昭和 26 年 4 月	学校法人設立認可
昭和 34 年～	旧中学館竣工 35 年—プール竣工 38 年—旧 2 号館竣工
昭和 39 年 4 月	滝実業高等学校を滝高等学校に校名変更
昭和 41 年～	第 1 体育館竣工
昭和 44 年	現：特別教室棟東館（旧中学館）竣工
昭和 50 年	50 周年事業として 3 号館及び報恩館竣工（80 周年時に解体）
平成 9 年～	第 2 体育館竣工
平成 10 年	現高校南館・高校北館竣工
平成 13 年 3 月	本館・講堂 国の有形文化財建造物として登録
平成 14 年 4 月	土曜講座始まる
平成 19 年	現中学館竣工
平成 20 年～	カナダ研修（平成 27 年～英国研修、平成 28 年～米国研修 始まる）
平成 23 年～	地域枠推薦入試（平成 24 年～帰国生入試 始まる）
平成 28 年 9 月	今後の滝学園の目指す教育を滝学園と連携し、補完する機関 「株式会社滝教育研究所」を設立
平成 29 年 6 月	図書館 国の有形文化財建造物として登録（増築部分を含む）
平成 31 年 3 月	「株式会社滝教育研究所」施設拡充・拡大のため移転 滝学園江南駅前キャンパス竣工（名古屋銀行旧江南支店 古知野町久保見）
令和元年 8 月	学内 LAN 高速化（1G から 10G へ）に伴うネットワークシステムの 再構築事業完成
〃	各教室へ映像配信システム （授業支援、ライブ配信システム）の設置事業完成
令和 2 年 7 月	中学全学年に iPad 貸与開始
令和 3 年 10 月	一宮駅⇄滝学園間スクールバス運行開始
令和 4 年 2 月	滝中学校 名古屋会場受験開始
令和 4 年 4 月	江南駅⇄滝学園間スクールバス運行開始
〃	百周年記念事業記念館新築工事開始
〃	百周年記念事業文化財保存改修工事（講堂・図書館）開始
令和 5 年 4 月	中・高 6 学年全生徒に iPad 貸与
令和 5 年 4 月	江南駅前キャンパスに「相談室」を開設
令和 5 年 8 月	百周年記念館完成及び文化財：講堂・図書館改修工事完了
令和 6 年 3 月	高校北館（旧職員室）教室仕様へ改修工事
令和 6 年 8 月	特別教室棟 2 期改修工事完了
令和 6 年 12 月	百周年事業 本館改修工事完了
令和 7 年 5 月	文化財ビジターセンター公開活用開始

(4) 法人組織

学校法人滝学園は、教育基本法及び学校教育法に従い学校を設置することを目的に創立された法人であり、法人組織については以下のとおりであります。また、現在設置している学校は、滝高等学校及び滝中学校の2校であります。

【評議員会】

評議員をもって組織し、学校法人の業務、財産の状況、役員の仕事執行の状況について役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴する。

【理事会】

理事をもって組織し、本法人の業務を決し、理事の仕事執行を監督する。

(5) 法人役員の状況 (令和6年度)

(注)【 】内は寄附行為中の条・項・号の該当数

1. 理事長 滝 富夫
2. 理事 (定員7名～11名 現員9名)
理事【7-1-1】高瀬裕隆
理事【7-1-2】滝 富夫 滝 祥夫 中島政彦 壁谷昭徳
理事【7-1-3】田口俊明 天野源之 小川宏嗣 朱宮新治
3. 監事 (定員2名 現員2名)
監事 加藤智子 伊藤靖祐
4. 評議員 (定員17名～24名 現員19名)
評議員【26-1-1】高瀬裕隆
評議員【26-1-2】横井大五郎 近藤功明 田口博章 壁谷昭徳 三輪 篤
評議員【26-1-3】上松泰歳 五藤三佐樹 浅井将雄 大西正一
評議員【26-1-4】滝 富夫 古川秀興 古川爲之 熊澤建雄 澤田和延
滝 祥夫 中島政彦 渡邊 敦 野々川房子

(6) 法人の活動

理事会及び評議員会を開催し、学校法人の事業計画及び運営上の重要事項の審議、決定及び業務執行をした。

(7) 令和6年度開催の理事会、評議員会への付議事項及び決議事項の概要

6 月 開催 於：ホテルオークラレストラン 会議室

- ・令和5年度事業報告案承認の件
- ・令和5年度収支決算案承認の件

9 月 開催 於：ホテルオークラレストラン 会議室

- ・寄附行為改正案承認の件
- ・その他

11 月 開催 於：名古屋観光ホテル 楠の間

- ・会計監査人の選任についての報告
- ・寄附行為変更案の修正について
- ・その他

3 月 開催 於：学校法人滝学園 会議室

- ・令和 6 年度補正予算案承認の件
- ・令和 6 年度施設設備引当資産取崩案承認の件
- ・令和 6 年度減価償却引当資産取崩案承認の件
- ・令和 6 年度第 2 号基本金引当資産取崩案承認の件
- ・令和 7 年度事業計画案承認の件
- ・令和 7 年度予算案承認の件
- ・「就業規則」改定案承認の件
- ・「育児に伴う短時間勤務制度に関する規程」改定案承認の件
- ・「育児に伴う所定外労働免除制度に関する規程」新設
- ・「給与規定」改定案承認の件
- ・その他

2 設置する学校の概要

(1) 設置する学校名、課程、科、校長、所在地

(学校名) 滝高等学校 全日制課程 普通科 (男女共学)
 滝中学校 (男女共学)
 (校長) 滝高等学校 高瀬裕隆
 滝中学校 高瀬裕隆
 (所在地) 愛知県江南市東野町米野1番地

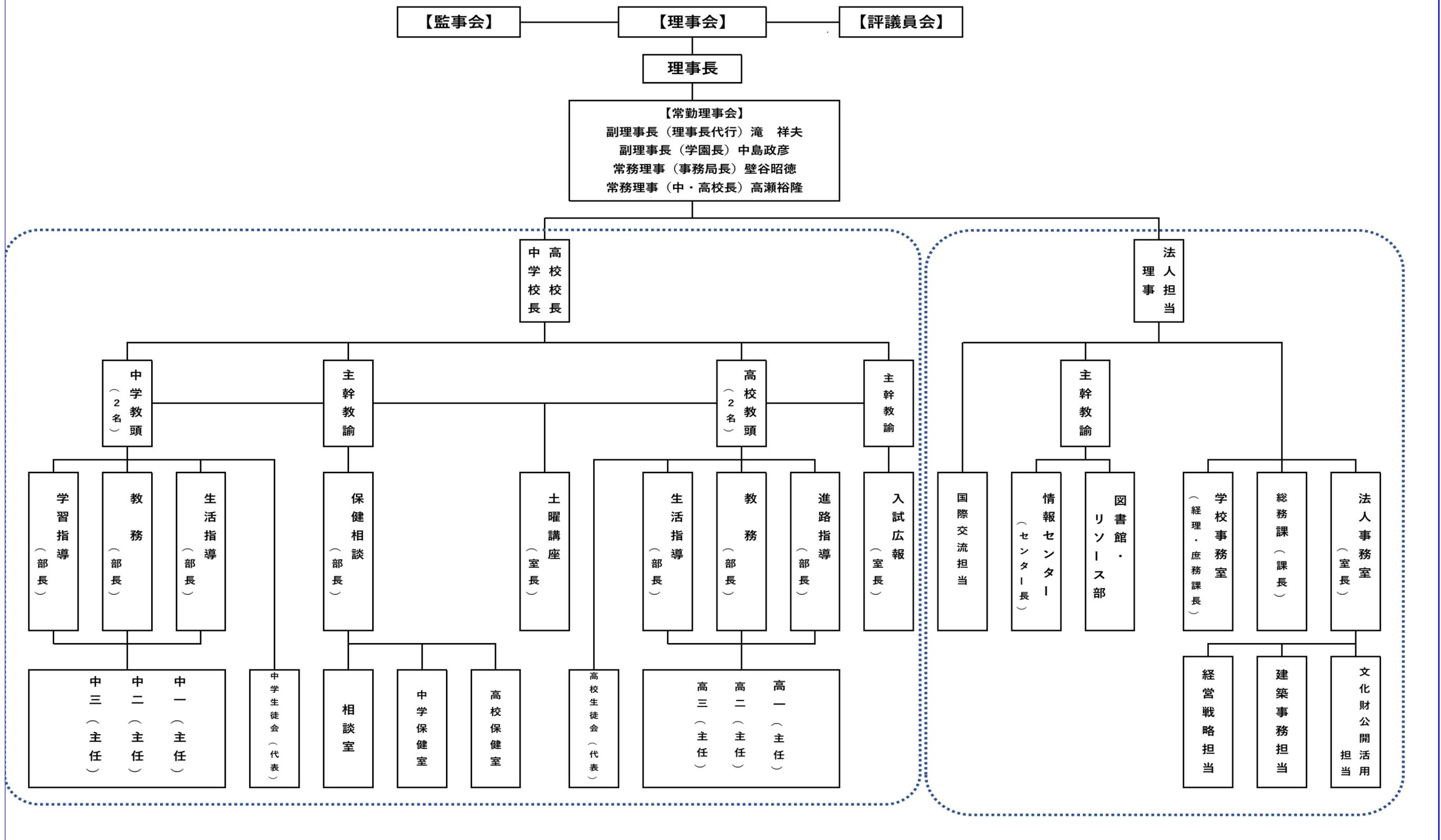
(2) 設置する学校の収容(入学)定員、生徒数、学級数 (令和6年5月1日実績)

学校名	学年	収容(入学)定員	生徒数	学級数
滝高等学校	1年生	360名	372名	9
	2年生	360名	349名	9
	3年生	360名	369名	9
	合計	1080名	1090名	27
滝中学校	1年生	280名	252名	6
	2年生	280名	250名	6
	3年生	280名	247名	6
	合計	840名	749名	18
総合計			1,839名	45

(3) 設置する学校の教職員数 (令和6年5月1日実績)

学校名	学園長	校長	教頭	教諭 / 養護	事務職 / 司書	講師	契約職員	校医
滝高等学校	1	1	2	55 / 2	7 / 1	9	8	4
滝中学校			2	36 / 2	3 / 1	8	4	4

令和6年度 学園組織



安全委員会

委員長	村田 明彦
委員(高校教頭)	三輪 篤
委員(中学主幹)	羽山 利男
委員(養護教諭)	中谷 由紀子
委員(中学運動)	藤本 翔大
委員(中学文化)	平井 博之
委員(高校運動)	小山 香織
委員(高校文化)	鷲見 伸介
委員(庶務課長)	舟橋 昌富

入試委員会

委員長(中学教頭)	近藤 功明
副委員長(高校教頭)	三輪 篤
副委員長(中学教頭)	横井 大五郎
副委員長(高校教頭)	田口 博章
委員(中学教務部長)	酒向 孝芳
委員(高校教務部長)	堀江 亮次
委員(情報センター長)	福地 敏温
委員(庶務課長)	舟橋 昌富
委員(法人事務)	六浦 政人

教科主任

英語:松井 良憲	数学:服部 雅司
国語:恒川 知紀	理科:高橋 由紀子
社会:石黒 隼大	保健体育:小山 香織
芸術等の教科代表:鷲見 伸介	

職員協議会

議長 秋田 陽哉
副議長 佐橋 亮太

ネットやケータイの犯罪・被害対策委員会

委員長(中学教頭)	横井 大五郎
副委員長(高校教頭)	田口 博章
委員(高校主幹)	高橋 秀希
委員(中学生生活指導部長)	武田 靖子
委員(高校生活指導部長)	野々垣 弘之
委員(情報センター長)	福地 敏温

学校評価委員会

委員長(情報センター長)	福地 敏温
委員(中学・高校校長)	高瀬 裕隆
委員(中学教頭)	横井 大五郎
委員(中学教頭)	近藤 功明
委員(高校教頭)	田口 博章
委員(高校教頭)	三輪 篤
委員(事務局長)	壁谷 昭徳

ハラスメント対策委員会

委員長(中学・高校校長)	高瀬 裕隆
委員(中学教頭)	横井 大五郎
委員(中学教頭)	近藤 功明
委員(高校教頭)	田口 博章
委員(高校教頭)	三輪 篤
委員(経理課長)	中村 直子
委員(中学生生活指導部長)	武田 靖子
委員(高校生活指導部長)	野々垣 弘之
委員	佐藤 千尋
委員	野田 雅代

ハラスメント窓口担当者

長村 侑輝	安藤 早苗	星野 佳代
岩塚 友紘	斉藤 美紀	

衛生委員会

委員長(中学・高校校長)	高瀬 裕隆
委員(事務局長)	壁谷 昭徳
委員(保健・相談部長)	加藤 晃子
委員(教職員代表)	(組合委員長)
委員(産業医)	日比野 佳孝

ICT支援係

松井 真也(中1)	宮木 稜太(高1)
加藤 吉博(中2)	松岡 継実(高2)
富永 双葉(中3)	川瀬 有香(高3)

滝学担当委員

委員長(中学教務部長)	酒向 孝芳
委員(中1学年主任)	神野 佳洋
委員(中2学年主任)	梶田 久雄
委員(中3学年主任)	八島 敏彦
委員(高1学年主任)	羽生 裕司
委員(中学教務担当)	横山 真子

100周年記念式典委員会

委員長:滝 祥夫、副委員長:壁谷 昭徳
田口 博章、横井 大五郎、高橋 秀希、福地 敏温
安藤 裕司、倉地 佑斗、山下 裕矢、杉浦 謙二
森 慶典

100周年記念誌委員会

委員長:中島 政彦、副委員長:高瀬 裕隆
三輪 篤、近藤 功明、羽山利男、井戸 康貴
田中 義人、秋田 陽哉、中島 雅斗、羽生 裕司
長村 侑輝、牧 野良祐、松岡 継実、六浦 政人

3 事業の概要

(1) 教育活動（主な活動抜粋）

(A) 教務部（各種行事計画・実施 図書・視聴覚活動）

基本的教育活動の一環として、授業実施計画及び学校全体の教育に係る行事を計画し、実施した。

- 4月 入学式、始業式、宿題テスト、新入生オリエンテーション、遠足、生徒面談
- 5月 教育実習生受入、定期考査、修学旅行（長崎3泊4日）〔中3〕、体育大会〔高〕
- 6月 学級別懇談会、研究授業
- 7月 定期考査、GTEC〔高1・2〕、終業式、音楽的行事〔中1〕
- 8月 特別授業、体験型学習〔中〕（※）
 - （※）中1 英語コミュニケーションプログラム
 - 中2 自然体験学習
 - 中3 グローバルスタディーズプログラム
- 9月 始業式、宿題テスト、実力テスト〔高3〕、生徒面談、長月祭（中・高）
- 10月 定期考査、体育大会〔中〕、美術的行事〔中1〕
- 11月 学級懇談会
- 12月 定期考査、実力テスト、生徒面談、GTEC〔高1〕、終業式
特別授業（復習授業、受験対策）、修学旅行（グアム3泊4日）〔高2〕
- 1月 始業式、実力テスト〔高〕、スタートアップテスト〔中〕、球技大会〔中、高1・2〕
- 2月 カルタ大会〔中〕
- 3月 定期考査、卒業式、終業式

(B) 進路学習指導部

【高校進路に関する指導】

日常の学習及び受験に向けての情報並びに幅広い社会的情報を提供するため、各種説明会、講演会、教養講座及び学習講座等を計画し、実施した。

- 4月 大学入試結果報告会
- 5月 高2理系講演会（理工系）
- 6月 高2文系講演会、高2理系講演会（医療系）、高1文理説明会
- 7月 高3進学説明会
- 8月 大学進学懇談会
- 9月 大学入学共通テスト出願説明会
- 10月 中3進学説明会、高1進路講演会（理系）、高2進学説明会
- 11月 高1進路講演会（文系）
- 1月 中2進学説明会、高2進学説明会、高3出願大学検討会

【中学学習に関する指導】

対外模試の成績をもとにして滝中学校の弱点教科を分析。国・英については順調。数学については指導の検討を要することが判別。これを受けて基礎学力定着における取組を立案・計画し、実施した。具体的な取組事項は現在立案中。

【土曜講座の企画並びに運営】

平成14年度からの「学校5日制」実施に伴い、本校では年間7～8回特定の土曜日に「土曜講座」という新しい教育フィールドを設け、年間約700講座を開講しています。そこには2本の柱、①教養講座と②学習講座を立て、生徒は自由参加で、本校の教員が自ら、又は講師を招き、日常の授業では得られない教育効果を求め継続的に実施した。

(記念講演会)

1年間の「土曜講座」の集大成として、又、新入生歓迎行事として毎年4月に「記念講演会」を実施しています。在校生や多くの卒業生・保護者の方が、各界の識者の講演を聴講しています。

- 第1回記念講演(平成15年4月19日)
 - ノーベル物理学賞受賞者 ジェローム・フリードマン教授
- 第2回記念講演(平成16年4月17日)
 - 哲学者 梅原 猛 氏
- 第3回記念講演(平成17年4月16日)
 - ノーベル化学賞受賞者中央研究院院長 李 遠哲 氏
- 第4回記念講演(平成18年4月15日)
 - アファンの森財団理事長・作家 C.W.ニコル 氏
- 第5回記念講演(平成19年4月21日)
 - 諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實 氏
- 第6回記念講演(平成20年4月12日)
 - 翻訳家 池田 香代子 氏
- 第7回記念講演(平成21年4月11日)
 - 数学者 秋山 仁 氏
- 第8回記念講演(平成22年4月8日)
 - 全国骨髓バンク推進連絡協議会会長 大谷 貴子 氏
- 第9回記念講演(平成23年4月16日)
 - 第29次、第35次南極地域観測隊観測隊長 渡辺 興亜 氏
- 第10回記念講演(平成24年4月14日)
 - 明治大学文学部教授 齋藤 孝 氏
- 第11回記念講演(平成25年4月13日)
 - 生物学者・理学博士 池田 清彦 氏
- 第12回記念講演(平成26年4月12日)
 - 経済アナリスト 森永 卓郎 氏
- 第13回記念講演(平成27年4月11日)
 - ノーベル物理学賞受賞者 小柴 昌俊 氏
- 第14回記念講演(平成28年4月9日)
 - 東京大学名誉教授 養老 孟司 氏
- 第15回記念講演(平成29年4月15日)
 - 日中友好協会会長グローバルビジネス学会会長 丹羽 宇一郎 氏
- 第16回記念講演(平成30年4月14日)
 - 名古屋大学教授ノーベル物理学賞受賞者 天野 浩 氏

- 第17回記念講演（平成31年4月20日）
 - 株式会社リアルディア代表取締役社長（元アップル副社長） 前刀 禎明 氏
（滝高等学校 第26回 卒業生）
- 第18回記念講演（令和2年4月18日） ⇒ コロナ感染拡大防止のため、中止
 - 脳科学者 茂木 健一郎 氏
- 第19回記念講演（令和3年4月10日）
 - 名古屋大学特任助教（滝高等学校 第47回 卒業生） 森島 邦博 氏
- 第20回記念講演（令和4年4月9日）
 - 慶応義塾大学大学院教授 岸 博幸 氏
- 第21回記念講演（令和5年4月15日）
 - 東京大学大学院 経済学研究科・公共政策大学院教授 渡辺 安虎 氏
（滝高等学校 第42回 卒業生）
- 第22回記念講演（令和6年4月13日）
 - 東京大学 卓越教授 ノーベル物理学賞受賞 梶田 隆章 氏
演題「科学の楽しさ - 私の経験から - 」

(C) 生活指導部（生活・保健衛生・安全に関する指導、生徒会活動）

生徒の日常的な生活、安全、衛生・健康に対する指導を目的とし、各種関係団体・部署との連携を保ち、行事等を計画し、実施した。

- 4月 教職員健康診断、生徒会役員選挙、クラブ見学・登録、安全教育、情報モラル教育
新入生健康診断
- 5月 避難訓練 校外(通学路)清掃活動
- 6月 通学路交通安全指導 避難訓練
- 7月 自然体験学習事前検診
- 9月 文化祭
- 10月 校外(通学路)清掃活動 生徒会役員選挙 通学路交通安全指導
- 11月 避難訓練
- 2月 在校生健康診断

(D) 入試広報室（募集活動 情報発信や連絡網の強化、入試業務のIT化）

中・高の入試に係る募集活動（学校案内作成、各種説明会やオープンキャンパスの実施）、学外の広報活動（マスコミ、企業）、HPの管理運営、学園の広報誌の発行等並びに入試業務のIT化を行った。

(E) 科、学年、その他

各部署の計画以外に、各学年及び各科が学校教育に必要と考える独自の計画をたて、実施した。

- 4月 憲法講演会（社会科）
- 7月 音楽的行事（中1）
- 10月 美術的行事（中1）

(F) 教務部国際教育推進係

(国際交流・海外研修、職員海外研修、海外提携の研究)

【国際交流・海外研修】

国際的視野を広め、英語学習や職業選択等に対する意識を向上させることを目的とする。

①カナダ研修（派遣人員：20名程度 派遣期間：8日間程度）

中学3年生希望者から選考し、春期休業中にカナダ派遣する。期間中は研修プログラムに従い、現地の生徒たちとの交流を図る。滞在はホームステイとし、現地での生活を実体験させることにより、異文化を理解させ、語学力の向上及び国際的視野を広げる一助とする。

②アメリカ研修（派遣人員：20～40名程度 派遣期間：10日間程度）

高校1年生希望者をアメリカに派遣し、世界のトップ大学とそこに集う教師陣、学生など、一流を身近に感じさせる。将来のキャリア像をグローバルな視点でとらえ、自分自身の夢の実現に向け、モチベーションの向上となることを期待する。

③イギリス研修(同窓会援助事業)（派遣人員：5名程度 派遣期間：10日間程度）

高校2年生希望者から選抜し、イギリス（主にロンドン）に派遣する。日本各地並びに現地からの同世代の生徒との交流・意見交換、世界で活躍する日本人との対話、UCL(University College London)の教授陣による講義等を経験する機会を与える。広い視野を持つ人物から、その考え方、経験を学び、それぞれの生徒が自身のステージをあげることを期待する。

④高校修学旅行（高校2年生全員 学年職員）

時期：12月中旬

令和6年度より高校修学旅行先がグアムに変更。修学旅行中、自然とのふれあいのみならず、歴史散策、平和学習、そして現地の高校や大学と交流が行われた。この修学旅行を機に、語学力への意識が向上し、歴史を振り返ることにより、現在平和を享受していることに気づくことに期待する。

【職員海外研修、海外提携の研究】

世界規模で活躍する人材をより多く輩出するため、職員の意識と指導のグローバル化の推進を目指す。海外の教育事情を研究し、在校生及び卒業生の留学のあり方を考える機会とする。海外の大学・高校等の状況を研究し、交流や連携のあり方も考え、立案できるようにする。

①カナダ教育事情視察（派遣人員：1名程度 派遣期間：8日間程度）

時期：3月 訪問地：カナダ（主にビクトリア）

生徒のカナダ研修の往復では、付き添い教員としサポートし、生徒の研修期間中には、現地の学校現場を視察しながら、本校のグローバル化のあり方を考える。

②海外教育事情視察（派遣人員：各1名程度 派遣期間：10日間程度）

時期：8月 訪問地：イギリス（主にロンドン）

イギリスへの生徒の派遣に同行しながら、先進的な教育環境や教育内容を研究する。将来の国際交流の可能性や、本校のグローバル化のあり方について考えるきっかけとする。

(G) 情報センター 図書館・リソース部

【情報センター】

- 教育 DX に向けた次なる展開への取組として、デジタル教科書の実装のほか、1人1台端末から得られる教育データの利活用の検討を進める。
(令和2年度から年次進行している生徒への端末貸与が、令和5年度には、中・高6学年すべての生徒に貸与完了。生徒利用端末で制限をしていたカメラ機能・クラウドの利用を開放する。端末の活用範囲を拡大し、新たな学習環境を提供する事で興味関心、学習効果を高め、生徒用端末の更なる利活用を進める。)
- 「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を1人1台の端末とクラウド環境のもつ力を借りて、一体的に充実させる為、前年度の課題であったクラウド利用の検討を引続き継続する。
- 生徒用貸与端末の活用範囲をさらに拡大する為、高校で活用が始まった生徒利用端末でのカメラ機能の解放を中学でも引き続き検討を進める。

【図書館・リソース部】

- 令和6年12月に本館側の図書館スペースが拡充。オープンなスペースとなり、読書も楽しみつつ憩いの場ともなる予定。より図書館が身近となる。図書館・本館・100周年記念館の2階部分を結ぶ「学びの輪」が完成。
- 閉架書庫も完成し、滝学園図書館の蔵書を支えると共に、滝文庫も保存する。保存に適切な環境を構築予定。
- デジタルサービスは引き続き充実させていく。ジャパナレッジスクールはサービスが向上し1000冊以上の本が読み放題になる。朝読の時間で読んでいる生徒も増えてきている。国語や英語などの辞書機能を授業で使う学年も増えてきている。また、電子図書館のラインナップもより充実させていく予定。

(H) 90周年行事で策定された「滝2026への羅針盤」の推進

「羅針盤」の新しい教育活動の充実

①基礎的な知識・技能のより確実な習得

・滝教育研究所について

令和5年度と同等の講座数を設置するとともに、受講生のニーズをくみ取った選択の幅のある時間割編成を行った。現受講生の継続率アップを目標とし、(今後も)同年同様の募集人数確保をめざした。

電気料金の高騰を意識した適正な空調利用の維持・管理に注力、費用抑制に努めるなど令和5年度と同様の安定収支を確立した。

学外自学自習用の拠点として生徒が活用しやすい学習環境を整備・推進、サービス品質の向上を図る。～学習図書の実質(赤本やOB文庫の整備など)による自習室利用の促進など。

校務支援システム「ブレンド」を活用した生徒・保護者連絡体制のスムーズ化を実現する。

新型コロナウイルス感染症対策として、施設内の衛生環境向上のための取り組み(毎日の什器・備品等の拭き上げ消毒等)を継続した。

新たに学園が取り組む「メンタルサポート施策」に関して、学園との連携を密にし、運営基盤の整備に努めた。

・ A L T の活用

(帰国生を中心とした英会話ブラッシュアップ講座)

②知識・技能を活用し課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力の獲得

・新土曜講座の充実(教養講座の重視)

・江南市民への開放講座

③主体的に協働しながら学習に取り組む態度の育成

・各種コンテストへの参加

(J)「滝学」の導入

令和5年度より引き続き、新中1生から新高1生(外進生)に対し、通年型グローバル探求プログラム「滝学」を従来の時間枠内に組みこみ実施した。これは科学、技術、工学、数学の横断的教育に加え、生徒自らが考え、意見をつくり、発信していくことに重点を置いた。創立者：滝信四郎の思いや、理事長：滝富夫の考えや姿勢について具体的に学ぶことを手始めとし、学年に応じてテーマを決め未来を生きる糧を与えることを目標とする。各学年、年間10回ずつ取り組むものとして導入。

(2) 教育施設・設備の充実及び安全確保

教育施設設備及び教育諸環境を整備・充実させることにより、教育効果を高め、また学校生活における安全を確保することを目的とする。

(A) 定期的な点検

校舎、クラブハウス等教育施設の安全点検

体育設備(防球ネット、ゴール等)の安全点検

緊急時設備(消防設備、プール水、緊急放送、避難経路等)の点検

校舎内施設(階段、床、扉、窓枠等)の安全点検

校舎外施設(門扉、フェンス、駐輪場、側溝等)の安全点検

緊急時の食料・宿泊用備品及び設備の確保・整備

(B) 長期維持管理の修繕、メンテナンス

建築後10年以上の施設の施設維持保繕は、計画を立て、例年通り実施を行った。

・特別教室棟第Ⅱ期改修工事

・高校北館 南館 アリーナの電灯LED化

・高校北館旧職員室を特別教室への改修工事

(C) 教育機器備品の充実

学年進行による中1から高3まで全学年タブレット貸与

(D) 滝学園⇄一宮間・滝学園⇄江南駅間スクールバス運行についての品質向上

生徒の安全・利便性を考え、令和3年10月より、滝学園⇄一宮間のスクールバスを導入。それに続いて、令和4年4月より滝学園⇄江南駅間の運行を開始。運行のための運行計画・運行ルール・導入に伴う施設設備（バス駐車場・滝学園内の乗降場所）の整備。令和6年度については運行状況の見直し等改善計画を実施した。

(E) 文化財建造物を活用した地域活性化事業

本館の改修工事は令和6年末に完了し、その後、展示関係の工事も完成した。

(3) 百周年記念事業

(A) 新教育目標の制定

創立90周年で校訓の「質実剛健、勤勉力行、報恩感謝」をもとにして3つの教育目標を定めた。この度、創立100周年を迎えるにあたり、今後、ますます機能（性能）が高度化していく人工知能（AI）が本学園の教育の将来に大きな変革をもたらすことを予期し、4つ目となる新しい教育目標を定め、創立100周年を目前にプレスタートを切った。

「新」教育目標

- 1) 「知力」「体力」「教養」のバランスのとれた生徒の育成を目指す。
- 2) それぞれの夢の実現にふさわしい志望大学に合格するだけでなく、その先に生きる確かな学力を身につけた生徒の育成を目指す。
- 3) 自己の社会的責任を自覚し、周囲に対する優しさを持って、それぞれが歩むネットワークの中で、かけがえのない役割を果たす生徒の育成を目指す。
- 4) 今後の高度情報化社会で自己実現を可能にする情報技術・倫理観を獲得し、人工知能などの発達に伴い益々重要になってくる知性・感性を持った生徒の育成を目指す。

(B) 目指すべき教職員像

新教育目標の制定とともに我々は新しい価値を見出すために目指すべき教職員像を定めた。

「目指すべき教職員像」

- ①教育目標の実現に向けて惜しみなく努力する教職員
- ②健康で安全な学園の創造に向けて努力する教職員
- ③生徒の未来に責任を持つことができる良き伴走者たる教職員
- ④自らの経験のみを頼りにする考えを克服して、新しい教育への研鑽に努める教職員
- ⑤他者を尊重し、認め合うことができる柔軟な思考を備えた教職員
- ⑥自らも教養を深め、生徒たちの好奇心、探求心を喚起する「本物」の学びを提供できる教職員

(C) 文化財改修工事（講堂・図書館）

本館・図書館・講堂はいずれも登録有形文化財として登録されているが、老朽化が進み、耐震性も不安であるため、修理を行い、完了した。又、今後は文化財建造物を活用した生徒に対する教育、文化活動はもちろん、江南市民のみならず、全国さらには海外の人々にその価値を広く伝えていくことを目指すため、整備事業として行う。

(D) 百周年記念館建設工事

学校教育方針に基づいた図書館エリアの拡張計画のもと、先だって行われている本館、講堂、図書館の改修計画に加え、ICT教育・国際教育機能を待たせた記念棟「100周年記念館」を新たに整備した。

鉄筋コンクリート造。地上2階建。延べ面積1,435㎡。

1階…新高校1～3年職員室、高校校長室、面談室等を配置

2階…ICTホール、ICTスタッフルーム、スタジオ、進路指導室等設置

(E) 滝文庫整備事業

滝文庫は滝信四郎の蔵書を中心に、新たに購入した図書を加え9,300冊を有している。図書館の改修を機会に整理（データ入力、保管）・燻製・クリーニングし、保管、又は一部を展示する。貴重な図書は閉架図書室に保管。

(F) スクールアイデンティティ・3つのポリシー

次の100年も滝学園の「らしさ」「強み」をもって成長するための羅針盤の再確認をするスクールアイデンティティ・3つのポリシーを作成します。

(G) 百周年専用WEBサイト

既に運用が開始されています。

(H) 寄付金活動

第3の収入の矢として、現在は「通常寄附・遺言信託」の募集を行っているが、今後も継続可能な寄付システムの構築を目指します。

(4) 生徒募集活動 以下の内容をもとに活動を行いました

創立者の学校法人設立の理念に基づき、社会に貢献できる人材を多く育成するため、また、学校法人の永続的な安定した運営を図るため、ひろく生徒を募集することを目的とする

(A) 学校説明会及び入試説明会

5月 オープンキャンパス・授業体験

6月 学校説明会（名古屋）

8月 学校説明会（本校）、学校見学会（本校）、学校説明会（岐阜）

8月 入試説明会（小学生・中学生対象）

(B) 私学協会、中学部会関係（合同相談会等）

6月 多治見相談会

7月 私立中学進学フェア（名古屋）

8月 私立学校展

(C) その他 関係諸団体での説明会

（高）10回程度 （中）20回程度

(D) 学校施設提供

塾開催の模擬試験会場の提供(日能研、名進研、野田塾等)

(E) 令和7年度入学試験

高等学校(令和7年1月) 中学校(令和7年2月)

[志願者数] 高等学校 973名(昨年:1,246名)

中学校 1,945名(昨年:1,891名)

(5) PTA活動(学校側参加分) 以下の内容をもとに活動を行いました

本学園の生徒の保護者と教職員が緊密に連携し、生徒に対する教育を真摯に考える機会を設け、「滝学園父母と教師の会」が企画・立案した活動に積極的に参加・協力した。

4月 総会

5月 役員会 学校説明会&学校見学会(滝学園)

6月 地区懇談会(全地区) 通学路安全指導(中学)

8月 大学進学懇談会 学校説明会(4支部)

9月 支部長会議

10月 通学路安全指導(高校)

12月 保健安全講演会

3月 役員会

(6) 同窓会活動(学校側参加分) 以下の内容をもとに活動を行いました

広く社会で活躍中の本学園の卒業生の組織活動に積極的に参加・働きかけをし、本学園の現状報告をするなどお互いに情報交換をし、また、本学園の理想的将来像等について意見を聴取するなど、お互いに理解を深めることを目的とする。

5月 役員会 岐阜支部会

6月 関西支部会

7月 東京支部会 名古屋支部会 一宮支部会

9月 総会

12月 役員会

その他 職域:豊田自動織機、法曹会

以上



教育の任務は重大であり、またその成果は永遠であります。創立者の崇高な建学の精神に基づき、教育目標を全うすることを目標に掲げ、本学園に学ぶ生徒達の心身の健やかな成長を願いたいと考えております。

令和6年度の学校法人滝学園の法人活動、教育活動、健全な学校運営、及び生徒達の安全確保という各事業を遂行するため、教育環境維持・整備などの教育支援事業を推進する。

令和7年5月30日
学校法人 滝 学 園
理事長 滝 富 夫